

平成 30 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：乗鞍岳における高山植生の調査

英文：Investigation of alpine plants on Mt. Norikura

研究代表者 泉山茂之

参加研究者 高橋耕一，大嶋克海，鈴木里奈，武田宗一郎，植松唯，島田隆人，武村俊亮，牧田直樹，矢原ひかり，谷川夏子，岡本瑞輝，暁麻衣子，小島実和，渥美 皓介

研究成果概要

この研究では中部山岳の乗鞍岳において、オオシラビソ、ダケカンバ、ハイマツの死亡率を解析した。乗鞍岳の高木限界付近では高木種のオオシラビソとダケカンバから矮性低木種のハイマツへと優占種が変化する。乗鞍岳の高木限界付近に 8 年前に設置された 125 か所の 10×10 m のプロットにおいて、3 種の死亡率を調べた。3 種ともに個体サイズ（幹直径）が大きくなるにしたがい、死亡率がわずかに減少した。しかし、個体サイズによる死亡率の変化はわずかであり、個体サイズに関係なく、ほぼ一定の死亡率であった。2018 年 9 月の台風 21 号によりオオシラビソやダケカンバは幹が折れるなど、大きな物理的損害を与えられたことによるものと考えられる。ハイマツの死亡個体はオオシラビソと混生しているプロットで多く見られた。ハイマツは物理的ダメージを負う危険性は低いが高木種との競争に弱いと考えられる。高木限界の構造に大きな変化は見られなかったが、台風 21 号による大規模な攪乱が起こったことによる影響を考えられ、大面積の調査区の再測定による個体群動態の解析を引き続き行うことが重要であることが示唆された。

整理番号 D06